

第59期（2024年度）事業報告書

— 目 次 —

I. 音楽教育事業	
1. YAMAHA MUSIC SCHOOL の展開及び音楽指導者の育成	1頁
2. 検定制度	6頁
3. コンサート・コンクール等の開催	7頁
II. 音楽研究活動	11頁
III. 音楽支援事業	13頁

2025年6月

一般財団法人ヤマハ音楽振興会

59期（2024年度）事業報告

当財団の活動は、幼児・児童・青年及び成人各層のために、豊かな人間性涵養の基盤となる音楽に関する教育活動の基礎的諸問題を探求し、また、その普及を推進して広く社会教育の振興に資するとともに、あわせてわが国及び諸外国における音楽文化の向上に寄与することを目的としています。

当年度は、この目的に沿って、下記の事業を推進しました。

I. 音楽教育事業

1. YAMAHA MUSIC SCHOOL の展開及び音楽指導者の育成

2024年5月に、子どもの音楽教室として親しまれている「ヤマハ音楽教室」、小学生から成人まで幅広い層を対象に音楽の楽しさを提供する「Yamaha Music Lesson」をはじめ、「青春ポップス」「MUSIC AVENUE」を「YAMAHA MUSIC SCHOOL」に統一しました。

音楽教育の一層の充実発展を図るために、当年度は下記の事業を推進し、音楽指導者の資質及び指導力の向上に努め、音楽教育の普及及び活動の促進を図りました。



(1) YAMAHA MUSIC SCHOOL の展開

当財団が実践している音楽教育は、その基本理念を「すべての人々が持っている音楽性を育み、創造的な音楽能力を養う」ことに置き、1954年以来70年に亘って国内外で展開しています。

2024年5月に「YAMAHA MUSIC SCHOOL」にサービスブランドを統一し、子どもから成人・シニアまで幅広い層を対象に、事業を展開してまいりました。また、海外においても、1965年のアメリカでの開設以来、各国に広がり、現在では40以上の国と地域で展開しています。

当年度は、以下の規模となりました。

<2024年6月現在（概数）>

		会場数	講師数	生徒数
国内	子ども（総合音楽教育領域）	2,100 会場	6,500 名	192,000 名
	大人・シニア（各種楽器・歌領域）	1,200 会場	4,800 名	99,000 名
国内計		2,200 会場	9,400 名	291,000 名
海外計		1,150 会場	7,700 名	161,300 名

(a) YAMAHA MUSIC SCHOOL（総合音楽教育領域）

出生数の減少、習い事の多様化、共働き世帯の増加、個を尊重する潮流など、YAMAHA MUSIC SCHOOLを取り巻く環境は急速に変化し、お客様一人ひとりのニーズも多様化しています。当年度は、YAMAHA MUSIC SCHOOLの中核となる幼児期コースを改定し、新コース「ぷらいまりー」「ぷらいまりーパーソナル」を導入しました。また、小学生を対象とした「プレジュニア」「プレジュニアパーソナル」も新たに展開を開始しました。



(b) YAMAHA MUSIC SCHOOL (各種楽器・歌領域)

当年度は、世の中の多様なニーズに対応した指導の実現と、より通いやすい曜日時間帯でのクラス開講、グループレッスンクラス充実による指導成果の最大化を目指し、新たなレッスンスタイルの先行展開を行いました。また、従来のカリキュラムに沿ったステップアップ式のレッスンから、「好きな曲を演奏したい」「自分のペースで楽しみたい」「上達したい」など、多様なニーズに応えることができる新たな教材を順次導入すべく開発やトライアルを行いました。

引き続き、指導内容の充実と市場への積極的な告知、普及を推進します。

(c) 海外の YAMAHA MUSIC SCHOOL

コロナ禍による影響が収束し、対面でのレッスンやイベントが再開される一方で、中国における景気減速の影響もあり、新規会場は増えているものの、海外全体の生徒数は前年を下回る結果となりました。生徒数の回復に向けては、各地域において「ぶらいまりー」および Learning Management System (以下 LMS) のトライアル導入が順次進められています。

イベント面では、2025年1月にマレーシアにて「第6回 Yamaha International Highlight Concert」を開催し、10の国と地域から選出された15組の生徒が、自作曲や即興演奏を含む多彩なパフォーマンスを、多くの観衆の前で披露しました。

また、リモートで開催されている Disklavier マスタークラスは年々参加者が増加しており、昨年度は5カ国から19名の生徒が参加するなど、国際的な広がりを見せています。

(d) シニア向け歌コース「青春ポップス」

気軽に音楽活動を楽しむ「青春ポップス」は、引き続きコロナ影響から回復の兆しを見せた1年間となりました。また当年度は、100曲のレパトリーに加え、年代に拘らず人気の曲を歌やステップで楽しむ「フリースタイルソング」を追加導入しました。

(2) 新規ソフトの開発

ヤマハの教室会場がない地域を中心に、講師の自宅での YAMAHA MUSIC SCHOOL を展開するほか、幼稚園・保育園向け正課音楽プログラム「おと♪はぐ」(全国61園で展開、3,500名の園児が参加)、自治体や高齢者施設向け音楽体操プログラム「まちかどエクササイズ」の展開などを行いました。また、課外プログラム「おと♪ふあん(仮称)」のトライアルへ向けた準備を進めています。今後は、他社との協業を含め、音楽を通して社会に貢献する活動をさらに充実させていきます。



[おと♪はぐ]

(3) ヤマハ音楽院の展開

ヤマハ音楽院では、音楽教室在籍生徒や卒業生がより深く音楽を学べる場として、質の高い音楽教育を展開しました。

(a) ヤマハマスタークラス (ピアノ特別コース)

クラシック様式のピアノ演奏を中心に、優れた資質や才能を持つ生徒を対象に、より高度な教育機会を提供します。59期は生徒7名が在籍し、研鑽を積みました。

- ・57期よりスーパーバイザーに就任したラルフ・ナットケンパー教授(元ドイツ・ハンブルク大学)の集中レッスンを、年3回行いました(オンライン含む)。

- ・漆原啓子先生によるヴァイオリンアンサンブルレッスンや、シャルル・リシャル=アムラン先生（カナダ・ピアニスト）、ヤコブ・ロイシュナー教授（ドイツ・デルモルト音楽大学）、ヴィレム・ブロンズ先生（オランダ・アムステルダム音楽院元教授）、ヤマハマスタークラス修了生のピアニスト小林海都さんによる特別レッスンを実施しました。



[リシャル=アムラン先生によるレッスン]



[マスタークラス修了生のピアニスト
小林海都さんによるレッスン]

(b) ジュニア創作研究コース

専門家による創作（作曲）レッスンにより、自作曲のクオリティー向上を目指します。全国 40 会場で展開し、約 300 名の生徒が対面レッスンに加えオンラインレッスンや添削レッスン等、様々なレッスン形態で年間を通して創作を学びました。

オンラインレッスンのみの創作研究コースでは、8 名の講師の下、50 名の生徒がレッスンを受講しました。

(4)YAMAHA MUSIC SCHOOL(総合音楽教育)講師の育成

2021 年度に発足した講師自身の自己啓発によるスキルアップの支援を目的とした講師ネットワーク「Yamaha Music Teachers' Association」(YMTA)を介し、指導情報や自己啓発に関する勉強会、講習会などを実施し、YAMAHA MUSIC SCHOOLの品質向上に努めました。コロナ5類移行後も、引き続き対面、オンラインの両方を内容により選択して実施しました。

また、2025 年 5 月より導入される新コース「ジュニア」の講習会、2024 年より順次導入している「ぶらいまりー」の勉強会をはじめ、講師フォーラム、指導者表彰などの顕彰制度を企画・実施し、指導力強化及びモチベーション向上の機会提供を行いました。

主な施策の内容は以下のとおりです。

(a)講師資格取得試験

当年度は6月と10月に、東京・大阪の2会場とオンライン会場(希望制)での試験を実施しました。143名がエントリーし、105名が合格しました。

(b)新講師稼働前講習会

稼働前に講師としての基礎的指導力を身につけることを目的として、2024年11月～2025年4月に、第1次講習会～第5次講習会を開催。98名の新講師に対し、対面でのレッスン実習を基本としながら、ヤマハの指導法について伝達しました。先輩講師のレッスン見学も併用し、5月からスムーズにレッスンが行えるよう体系的なサポートを実施しました。

(c)YMTAを介した自己啓発支援(勉強会・講習会等)

講師の自己啓発支援を目的に、YMTAからの要望・意見を踏まえ、聴講型・参加型等さまざまな形態の講師勉強会及び講習会等を企画し、全国企画として年間11テーマ(50コンテンツ・延べ1万名参加)、エリア企画として130本(延べ3,000名)を実施しました。

(d)講師フォーラム

講師自己啓発及びリフレッシュ施策の一つとして、ヤマハ講師フォーラム24'～25'を開催しました。2024年10月に青山学院大学陸上競技部 原晋監督による講演会を実施し、対面で140名参加、アーカイブを延べ2,300名の講師が視聴しました。また、音楽教室70周年記念番組「音楽教室と私」と題した特別番組を制作しました。番組で紹介する思い出のエピソードや写真、演奏映像、オリジナルBGM作品を全国の講師から募集し、2月に講師9,800名に向けて発信しました。

(5)YAMAHA MUSIC SCHOOL(各種楽器・歌領域)講師の育成

総合音楽教育講師同様、講師自身の自己啓発によるスキルアップの支援を目的とした「Yamaha Music Teachers' Association」(YMTA)を介し勉強会、講習会などを実施し、楽器・歌のレッスンの品質向上に努めました。また、2025年度のコースリニューアルへ向けて、2024年12月に全国の核となる各楽器講師約60名を対象に伝達会を実施しました。

(a)講師資格取得試験

楽器・歌のレッスン講師の認定～育成を目的として、当年度は7月と1月に、全国4地区にて試験を実施しました。205名がエントリーし、68名が合格しました。

(b)新講師稼働前講習会

稼働前に講師としての基礎的指導力を身につけることを目的として、2024年8～11月、2025年2～3月にかけて、新講師稼働前1次講習会～5次講習会を開催し、60名が参加しました。グループレッスン実習などの指導法の実践、コース概要、テキストカリキュラムなどに関する概論を対面及びリモートでの講習会や独習用の動画コンテンツにて伝達しました。また、稼働開始後に先輩講師からのアドバイスを受けるアドバイザー講師制度による指導力向上、新講師のフォロー対応を実施しました。

(6)ピアノ指導者の育成

全国のピアノ指導者の資質及び指導力向上を目的として、ピアノ個人レッスン指導者のためのサポートシステム、PSTA (piano-study teachers' association) を展開し、当年度は、約 7,000 名のピアノ指導者に対して、以下の講座、情報等の提供を行いました。

(a) インターネットを活用した各種講座

インターネットを活用したピアノ指導者向けオンデマンド音楽講座（動画）およびレッスンのヒント（資料）を公開し、当年度は延べ 135 タイトルの新講座を制作しました。その他、常設講座等は合計 584 タイトルです。

(b) 最新情報の発信と指導情報等の提供

PSTA ホームページに指導者専用ページを設置し、メソッド活用法などの指導者情報をはじめ、全国の指導者同士で情報が交換できる掲示板、機関誌や誌上講座など様々なコンテンツを提供し、その充実を図りました。

(7)一般音楽指導者のための各種音楽講座

音楽指導者の音楽力及び指導力の向上を目的に、当財団の直営音楽センターを中心に全国で各種音楽講座を実施しました。

(8)音楽教育ソフトの制作・出版

当財団の音楽教育活動の実践のため、YAMAHA MUSIC SCHOOL における各教科の教材を中心とする各種音楽教育ソフトを制作し、配信・出版しました。教材の一部は、楽譜配信システム「ればナビ」に加えて音源・映像を LMS でも配信しました。さらに 2025 年春より導入・展開する新コースの教材を制作・出版しました。

(9)エレクトーン音楽の普及

音楽教室においてエレクトーンを使用することにより教育成果を最大限に引き出すため、YMTA 活動の一環としてエレクトーンをテーマとした講師向けの各種勉強会を実施しました。

《勉強会テーマ例》

- ・幼児期、児童期、大人、各年代でのエレクトーン指導
- ・小学生低学年のエレクトーン創作指導
- ・エレクトーンエチュード勉強会
- ・エレクトーンプレイヤーによる演奏法（渡辺睦樹氏） など

エレクトーン諮問委員会は先期に引き続き「エレクトーン演奏人口増に向けた教育成果の再定義」をテーマに継続しました。また、これと連動した講師による指導研究会を立ち上げ、趣味層生徒のレッスン映像を使用して研究を進めました。

絶版となっていた「エレクトーンエチュード Vol.1 Vol.2」を配信楽譜として復刻、様々な書法を駆使した唯一のエチュード集としてエレクトーン音楽の可能性を一般演奏愛好者に向けて訴求しました。月刊エレクトーンでも記事掲載されました。

2. 検定制度

「ヤマハ音楽能力検定」(ヤマハグレード)は、音楽を学ぶ学習者・指導者等を対象に、自分の力を確かめながら、バランスの取れた音楽力を伸ばすことを目的として実施しています。

当年度は、現行の幼児科音楽基礎グレードに代わり「音楽基礎グレード」を新たに導入いたしました。「音楽基礎グレード」は幼児科および各種コース(ぷらいまリー、ぷらいまリーパーソナル、プレジュニア、プレジュニアパーソナル)の在籍生を対象としております。

(1) 国内の受験状況

当年度は、全国各地で検定試験を実施しました。受験者数は以下のとおりです。

	ピアノ	エレクトーン	指導	管、ドラム クラシックギター	基礎グレード
13～6級	42,472	8,840	-	23	幼児科他
5～3級	1,460	745	833	0	
小計	43,932	9,585	833	23	20,214
合計					74,587

※2級検定は単に演奏技術の面だけでなく、音楽表現力等も含めた総合的な音楽力と演奏力を客観的に検定するもので、当年度は下記のとおり実施しました。

実施日	会場	種別	受験者数	合格者数
2024年7月14日	東京	エレクトーン	6	1
2025年1月11日、12日	東京	ピアノ	14	3

(2) 海外の受験状況

海外の29の国と地域で検定を実施し、下記の受験者数となりました。

種別	受験者数
幼児科基礎グレード	6,530
学習者グレード(13～6級)	44,420
指導者グレード(5～3級)	1,680
海外合計	52,630

(3) ヤマハピアノコンサートグレード

ヤマハピアノコンサートグレードは、コンサート形式で試験を実施するグレード体系です。ステージでの演奏を通じて、“人前で表現すること”の喜びを実感しながら徐々にステップアップしていくことを目指しています。入門からディプロマまで20段階のグレードに分かれており、初級者から専門的に学んでいる学生や指導者まで幅広い層の方々が今習っている曲で受験することができます。

当財団は、各グレードに適した課題曲の選曲やアドバイザー認定を担い、株式会社ヤマハミュージックジャパンと共催の「上級・ディプロマ」は東京、大阪の2拠点で実施し、上級78人、ディプロマ11人が受験しました。

3. コンサート・コンクール等の開催

(1) ヤマハ・ガラ・コンサート 2024

ヤマハ音楽振興会が実践する音楽普及、教育活動で育まれる多様な創造性を様々に表現する、若き音楽家たちによるスペシャルコンサートを、ヤマハ音楽教室卒業生の塩谷哲をゲストに迎え、以下の要領で実施しました。またコンサートの模様は、BS 朝日のテレビ番組「ヤマハ・ガラ・コンサート 2024 ～未来へつなぐ音楽の心～」で放映されました。

開催日	会場	後援
9月23日（月・祝）	東京オペラシティ コンサートホール	ヤマハ株式会社 株式会社ヤマハミュージックジャパン

内容
<p>【出演】 2023年度ジュニアオリジナルコンサート（JOC）参加作品より7作品 ※海外1作品を含む</p> <p>ヤマハエレクトーンフェスティバル（YEF）2023 中学生部門 第1位受賞者 第8回ヤマハジュニアピアノコンクール（YJPC）C部門 第1位 受賞者</p> <p>〈共演〉 東京交響楽団（指揮：角田鋼亮） 〈ゲスト演奏〉 塩谷哲（ピアニスト/作・編曲家/プロデューサー）</p>



[ヤマハ・ガラ・コンサート 2024]

(2) ジュニアオリジナルコンサート

「ヤマハ音楽教育システム」で学ぶ15歳以下の子どもたちが、心に感じたことを曲にし、自ら演奏するコンサート「ジュニアオリジナルコンサート（JOC）」を、1972年より世界各国で開催しています。子どもたちのもつ無限の可能性を引き出し、その成長を促すための発表の場として広く支持されており、またこの活動から多くの音楽家が育ち、現在音楽界をはじめ各界で広く活躍しています。当年度は、以下の企画・コンサートを実施しました。

(a) JOCセレクション 2024

JOC店別コンサートでの推薦曲の中から選曲された80曲を収録した映像に海外からの楽曲も加え、子どもたちの活きいきとした作品、演奏の数々をヤマハ JOCチャンネル（※）にて公開しました。



[JOCセレクション 2024]

※「ヤマハ JOC チャンネル」 (YouTube 公式)

2020年8月に開設。JOCの活動を含むヤマハの音楽普及活動を紹介しています。

⇒チャンネル登録者数：10,200人 1,100本近くの動画を公開中(2025年3月時点)

https://www.youtube.com/@yamaha_joc

(b) YouTube・プログラムコンテンツ (～音楽ヒーロー・ヒロイン～「奏デンジャーIV」)

YAMAHA MUSIC SCHOOLで学ぶ子どもたちを紹介する番組として14分・全8回を制作し放映しました。59期でSeason4を迎え、MCの音楽教室での体感ロケ映像や、ヤマハ音楽教室出身で現在活躍中の音楽家の紹介をはじめ、「JOC2024」に参加した子どもたちの日常を、演奏映像とともに紹介しました。MCは、歌手・俳優の木原瑠生さんとタレントの森保まどかさん(元HKT48)を起用し、番組オリジナルキャラクターの「ランラン」と共に楽しく伝えています。



〔「奏デンジャーIV」より〕

その他、YAMAHA MUSIC SCHOOLの講師をフィーチャーしたプログラム「はなマル Music Teacher」や、ヤマハの音楽教室に通っていた16歳～22歳の方々を追ったドキュメントプログラム「タイムカプセル 未来の私へ」といったコンテンツを公開しています。



〔はなマル Music Teacher〕



〔タイムカプセル 未来の私へ〕

(3) ヤマハエレクトーンフェスティバル

子どもから大人までを対象に日頃の学習成果披露及びエレクトーン演奏の楽しみを発信する場として、また演奏力・音楽力向上を目的としたコンペティションとしてソロ演奏部門・アンサンブル演奏部門の2つの部門で実施しました。(主催：(株)ヤマハミュージックジャパン、共催：ヤマハ音楽振興会)

小学生低学年／小学生高学年／中学生／一般の4部門で展開、「特約店大会」(ソロ約9,100名、アンサンブル約28,000名出場)にて推薦を受けた出場者が「地区大会」(ソロ約1,350名、アンサンブル約1,100組出場)にエントリー。更にソロ演奏部門では上位大会である「セミファイナル(公開選考会)」(約250名出場)を経た出場者による最終ステージ「グランドファイナル」を実施しました。

すべての大会が有観客で行われ、グランドファイナルでは海外出場者7名を加えた総勢50名の上場者により華やかなステージが展開されました。

(a) 地区大会

開催日	会場
[ソロ] 7月～8月 [アンサンブル] 10月～2025年1月	全国22地区 全国24地区

(b) セミファイナル

開催日	会場
10月6日(日)～14日(月・祝)	全国2箇所(東京/大阪)

(c) グランドファイナル

開催日	会場
2024年12月7日(土)～8日(日)	NHK大阪ホール



[ヤマハエレクトーンフェスティバル2024 グランドファイナル]

(4) ヤマハジュニアピアノコンクール

学習と研鑽、及び若きピアニスト育成の場として「第9回ヤマハジュニアピアノコンクール(YJPC)」を開催しました(主催：(株)ヤマハミュージックジャパン、共催：ヤマハ音楽振興会)。海外出場枠新設に伴うグローバル化を踏まえ、国内大会プロセスを見直すとともに、国際コンクールの選考プロセスに倣い、第6回より一部の選考に「映像審査」を導入しています。

ジュニア部門は、中学生以下のピアノ学習者を対象に、A部門(満8歳以下)、B部門(満10歳以下)、C部門(満12歳以下)、D部門(満15歳以下)の4部門で展開し、音楽のジャンルを問わないことや編曲演奏が含まれるなど、演奏曲の自由度や幅広さを特徴とし、一次選考(ヤマハ特約楽器店推薦者/個人エントリー：約15,000名出場)、二次選考(約3,500名出場)、セミファイナル(約400名出場)を経て、グランドファイナルに47名が出場しました。また、海外からは14の国と地域からエントリー。各国での一次・二次選考を経て、セミファイナルには66名が出場、グランドファイナルへは6名が出場しました。

満20歳以下の資質ある若き演奏家の発掘・育成を目的としたユース部門は、映像審査、セミファイナルを経て、グランドファイナルへは5名が出場しました。表彰式終了後には、7名の審査員から個別に講評をいただきました。

セミファイナル・グランドファイナルともに演奏表現力や創造性をより高いレベルで競い、熱演を繰り広げました。

(a)ジュニア部門 セミファイナル

エリア	開催日	会場
北海道	6月2日(日)	札幌サンプラザ コンサートホール
東北	6月8日(土)	盛岡市民文化ホール 小ホール
首都圏・関東	6月15日(土)、16日(日)	ヤマハホール(東京)
東海	6月22日(土)、23日(日)	電気文化会館 ザ・コンサートホール
近畿・北陸	6月8日(土)、9日(日)	住友生命 いずみホール
中国・四国	6月2日(日)	広島市 安芸区民文化センター
九州	6月1日(土)	北九州市 響ホール

(b)ジュニア部門 グランドファイナル

開催日	会場
7月30日(火)、31日(水)	第一生命ホール

(c)ユース部門

大会名	開催日	会場
セミファイナル	7月29日(月)	第一生命ホール
グランドファイナル	8月1日(木)	



A部門 第1位：末次 花菜



B部門 第1位：菅原 悠心



C部門 第1位：正木 克橙



D部門 第1位：一ノ瀬 流華



ユース部門 第1位：大沢 舞

II. 音楽研究活動

音楽振興の一層の充実発展を目的に音楽及び音楽教育に関する調査や研究を行い発表しました。

(1) ヤマハ音楽研究所 研究活動

研究テーマ	概要と発表
異年齢集団による音楽活動におけるインタラクション等の研究	<p>幼児期異年齢集団の子ども達に対し、音への興味・関心をより促す新規開発教具「MYCAS(マイカス)」を通じた音楽体験を実施しインタラクション等効果検証を行う。</p> <p>IPA 日本支部定例研究集会、日本発達心理学会のラウンドテーブルで発表(話題提供)を行い、現在も分析継続中</p> <p>*共同研究者 駒沢女子大学人間総合学群心理学類准教授 丸山 慎 神戸芸術工科大学 映像表現学科/大学院 芸術工学研究科准教授 金箱 淳一</p>
音楽が認知機能に及ぼす影響研究	<p>高齢者を対象とし、AI(人工知能)を使用してテキストを音楽に変換、選曲する介入(音会)により、音楽が脳(認知)機能に及ぼす影響を明らかにする。論文が国際ジャーナル(Brain and Behavior)に掲載。</p> <p>*共同研究者 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 佐藤正之 株式会社 Amadeus Code</p>
ヤマハ講師のスキル変化研究	<p>ヤマハ講師のコミュニケーションスキルが稼働前から稼働後にかけて、どのように成長、変化していくのか、について科学的に検証することを目的とする。併せて音楽表現における「伝えるスキル」についても検証し、コミュニケーションスキルとの関連性も含め分析継続中。</p> <p>*共同研究者 東京音楽大学専任講師 渚 智佳 神戸学院大学心理学部准教授 河瀬 諭 神戸大学人間発達環境学研究科助教 岡野真裕</p>
音楽レッスンを通して得られる非認知的能力に関する大規模調査	<p>音楽レッスンを通してどのような非音楽的能力を子どもが身につけているか。幼児期の音楽グループレッスンでの非認知能力の獲得に関し、他の習い事と比較することによる。調査はデータ分析継続中、学会発表も行う。</p> <p>*共同研究者 KDDI 研究所 馬田一郎 青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授 米田英嗣 神戸学院大学心理学部准教授 河瀬 諭</p>
音楽の「食力」向上への効果検証研究	<p>高齢者対象の音楽体操プログラムの声を使う項目エクササイズをアプリ化し、顎・舌欠損患者を対象に、家庭での毎日の声のトレーニングの「食力」向上の効果を検証する。</p> <p>被験者39名(エクササイズ群19名、コントロール群20名)を対象に3カ月間の実験を2フェーズに分けて実施、データ分析継続、論文投稿検討中。</p> <p>*共同研究者 国立大学法人東京科学大学、ヤマハ株式会社</p>
お稽古ごとと家庭学習に関する調査研究	<p>ヤマハ音楽教室在籍生を対象に、家庭学習及び家庭の音楽環境と音楽教室での学びや感性、取り巻く環境との関連、非認知能力の育ちとの関連について追跡調査を行なう。開発運用中のLMSでの履歴データの情報分析も視野に入れる。</p> <p>*共同研究者 岡山大学大学院名誉教授 小川容子</p>

※上記の他、ピアノ演奏各種データ取得、鍵盤弾き間違いモデル化、遠隔レッスンソリューション評価など各種実験への参画を行っています。

(2) 学術集会での研究発表及び論文掲載

学 術 誌	Brain and Behavior
掲 載 日	2024年9月6日
論 文 名	Transforming text to music using artificial intelligence improves the frontal lobe function of normal older adults

学 会 名	日本発達心理学会 第36回大会
発 表 日	2025年3月5日 (ポスターセッション)
発表タイトル	幼児期の音楽グループレッスンと非認知能力との関係について

(3) 研究内容の発信

ホームページを通じ、音楽研究関係者から音楽指導者、一般の方まで多くの方に向け情報を発信しました。

◆ヤマハ音楽研究所サイト

活動概要、学会発表や論文掲載など研究発表の実績を掲載

◆ON-KEN SCOPE

音楽と人を取り巻く多様な研究によって得られた研究成果を身近なテーマや視点とともにわかりやすく紹介

【アクセス状況】

2024年7月～2025年1月 月間平均PV (ページビュー) 数7,925

Ⅲ. 音楽支援事業

1. ヤマハ音楽支援制度

本事業は、音楽学習者に対して、奨学金等の支給をはじめとした以下の支援を行うことを通じて、広く世の中に音楽の普及を推進し社会教育の振興に資するとともに、音楽文化の発展に貢献することを目的として実施しています。



[オンラインによる授与式を実施（4月）]

■2024 年度新規採用者（音楽奨学支援 5 名）



今井 理子
ピアノ

ウィーン国立音楽大学



竹内 鴻史郎
ヴァイオリン

東京音楽大学



竹本 百合子
ヴァイオリン

ベルリン芸術大学



古澤 香理
ヴァイオリン

ハンス・アイスラー
音楽大学ベルリン



児玉 隼人
トランペット

神奈川県相模原市立
大野台中学校

(1) 音楽奨学支援

優れた音楽能力を有し、将来音楽界の第一線で活躍が期待できる方、あわせて、音楽と真摯に向き合い具体的な目標を持って取り組んでいる方への支援です。当年度は以下の支援を行いました。

	当年度支援実績
新規支給者数	5 名
総支給者数	9 名
年間総支給金額	21,600,000 円